

蒼潮

第27号

(平成29年9月)

長崎県漁業士連絡協議会

＜平成29年度長崎県漁業士連絡協議会総会及び交流集会＞

平成29年7月6日（木）長崎県漁協会館において、長崎県漁業士連絡協議会の総会及び交流集会が開催されました。議事は、平成28年度の事業実績・収支決算報告や平成29年度の事業計画・収支予算（案）などでしたが、県央地区本木隆光指導漁業士の議事進行のもとスムーズに進められ、全ての議事において皆さんの了承を得ることが出来ました。

そして、交流集会では谷川和弘青年漁業士（下五島地区）による「メダイ一本釣漁業について」の研修報告がされた他、吉岐地区漁業士会の「農協まつりへの参加について」の紹介がされました。また、経営支援室松尾隆男係長から、水産経営支援事業の内容や成果が紹介され、活発な質疑が行われるなど漁業士で情報共有することができました。

大会終了後は、別会場にて、意見交換会が行われ、各テーブルで膝を交えて語り合う光景が多く見られました。

今後とも総会に合わせて交流集会や意見交換会を開催していく予定ですので、皆様の積極的なご参加をお願いいたします。



交流集会の様子

＜平成29年度未来を繋ぐ漁村塾事業「第1回漁業講座」＞

県では今では少なくなった先輩から後輩へ漁業技術を伝承する番屋の役割を担う「漁業講座」を年2回行っており、これまで5年間で「のべ195名」が受講しています。

平成29年8月29日（火）～8月31日（木）長崎タクシー会館および県総合水試験場、新三重漁業協同組合、長崎魚市において、未来を繋ぐ漁村塾事業「第1回漁業講座」が開催されました。

漁船漁業や養殖漁業に携わる研修生や若手・中堅漁業者ら14名の受講生が受講し、杓岐地区漁業士会からも今後の若手育成指導に活かすため、住吉正彦指導漁業士に参加していただきました。

今回はヤンマー船用システム株式会社やフルノ九州販売長崎営業所から講師をお招きして、エンジンの仕組みやメンテナンス、船用電子機器の活用法等の講義も加えられ、受講生からは活発な質疑がされました。

また、これまでも講師をお願いしている、県北地区漁業士会山川富士夫の講義も行われ、落とし込み漁法、マグロ・イカ樽流し、アラ延縄などの座学の他、実際の漁具や疑似餌の作り方などの実習が行われました。

1日目の夜は親睦会も行われ、住吉漁業士を中心に環ができて、受講生間の交流が行われました。

最終日には、坂本水産部長から受講生に、修了証書が手渡されました。

なお、次回は平成30年2月に開催予定です。



山川漁業士の講座の様子



受講生と坂本水産部長記念撮影

＜水産教室の開催＞

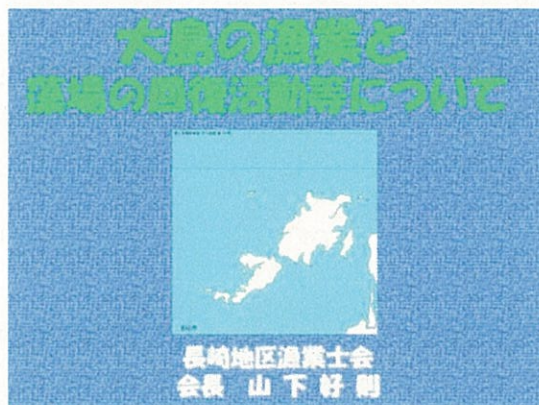
平成29年7月5日（水）、長崎地区漁業士会が西海市大島町の大島東小学校において、5年生児童31名を対象とした水産教室を開催しました。

水産教室では大島の漁業と藻場の回復活動等について、西海大崎漁協所属の山下指導漁業士が実際に使用する漁具やビデオなどを見せながら説明しました。

児童達は藻場の映像や一本釣り(擬餌針)、刺網、かご、採介藻(潜水)の漁具に興味深そうに見入っていました。地元で魚がどのように獲られているか、大島周辺の海の環境の現状と漁業者による藻場回復の取り組みなどを理解してもらう良い機会になったと思います。

大島東小学校では総合学習として、大島の水産業や海の環境、食育などについて取り組むこととしており、同じ児童を対象に、養殖魚への給餌体験や魚を用いた料理実習を11月にも実施する予定です。

児童の皆さんに、さらに水産業への理解を深めてもらえればと考えています。



ウニ駆除について説明中の山下漁業士



ウェットスーツの試着



出席児童全員との撮影

下五島地区漁業士会

＜管内漁業士5名がジャパンインターナショナルシーフードショーに 「五島メ」鮮魚を出展しました＞

平成29年8月22日から23日に、東京ビッグサイトでジャパンインターナショナルシーフードショーが開催され、下五島地区漁業士会所属の「五島メの匠」5名が鮮魚を出展し、3名が現地でPRを行いました。

出展に際しては、五島市物産振興協会に物流や受注対応などの協力をいただき、鮮魚セットの展示や刺身の試食を行いました。会場では、漁業士自らが飲食店等に対して、五島メの魚の質の高さなどを説明しました。

飲食店等からは代金決済や商品到着までのタイムスケジュールなどの質問以外にも、漁獲方法やメ方の工夫など生産現場についての詳細な質問があり、漁業者ならではのリアルな話をすることができました。

3日間で合計60社との商談を行いました。今後、商談を継続し、取引に繋げて行きたいと思います。



会場外観



五島メ鮮魚展示の様子



PRを行う谷川和青年漁業士(左2番目)
と川上青年漁業士(左3番目)



PRを行う谷川賢青年漁業士(右1番目)

＜漁業者ベテラン研修を受講しました＞

平成29年8月30日、五島市富江町で長崎県水産部主催による「漁業者ベテラン研修」が開催され、下五島地区漁業士会から餌網代指導漁業士が参加しました。

本研修は、一定の漁業経験を持ち、現在および将来、漁村地域で指導的役割を担う漁業者を対象に開催されるもので、五島市での開催は、昨年続き今回が2回目です。

富江地区では、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産工学研究所が漁船の燃料消費の見える化装置の取り付け試験を実施していることから、今回、「漁船漁業の省エネルギーについて」（溝口博士）と「漁業の軽労化対策について」（高橋博士）をテーマに開催されることになりました。

餌網代漁業士は富江地区在住ではありませんが、漁船漁業の省エネルギーについて興味があったことから今回参加され、熱心に話を聴いていました。今回の研修が、今後の活動の参考になることを期待しています。



漁船漁業の省エネルギーについて講演する水産工学研究所の溝口博士と参加者

＜高校生の漁業研修を受け入れました＞

長崎県では、高校生等で、漁業に強い興味関心があり、将来の職業選択の一つとして漁業を検討する希望者を対象に、先進漁家等に派遣する研修を実施しています。

元々は長崎鶴洋高校の生徒を対象に実施されていましたが、昨年度から他の高校の生徒も研修の対象となり、今年度はじめて、五島市内の高校からも4名の研修希望がありました。

そのうちの1名が、平成29年8月17日から20日まで、下五島地区漁業士会の片山指導漁業士のもとで定置網の技術研修を受けました。

研修は、片山漁業士の自宅に泊まり込みで行われ、早朝から網起こし、選別、出荷作業、網修理、網洗いと盛りだくさんだったようですが、高校生からの報告書では、充実した研修だったことが伺えました。

研修を受けた高校生は、卒業後は養殖業に就きたいと話しています。研修を受けた定置網とは違いますが、研修での体験が役に立ったのではないかと考えています。

＜壱岐高校水産実習への参加＞

平成29年7月26日、壱岐高校の授業の一環として、芦辺町の壱岐島開発総合センターにて2学年の理系コース70名を対象とした「海洋生物観察実習」が開催され、壱岐地区漁業士会から吉木会長、村谷漁業士、西正寛漁業士、西貫司漁業士の4名が参加しました。

この取組は、長崎大学水産学部や箱崎漁業協同組合の協力のもと平成22年から8年間続いており、地元高校生が水産業の実態や海洋生物の生態に触れる大切な機会となっていますが、高校からの要請を受け今年度から漁業士会も活動に参加したものです。

定置網漁業の乗船実習や壱岐の水産業に関する講話のほか、魚食普及を目的とした魚の捌き方実習があり、漁業士が箱崎漁協所属の漁業者とともに捌き方の指導にあたりました。

生徒のほとんどが魚を捌いた経験は無く戸惑いを隠せない様子でしたが、作業の手が止まる生徒を見つけては次の手順を示すなど細やかな指導を行ったことで、各テーブルの上に見事な刺身が並び、生徒達からも達成感が感じられました。

今年度から漁業士も指導にあたることとなりましたが、学校側の意向もあり次年度以降も取組を継続していくこととしています。



吉木会長



村谷漁業士



西正寛漁業士



西貫司漁業士

＜水産教室の開催＞

対馬地区漁業士会では、若い世代への魚食普及と水産業に親しみを持ってもらうことを目的に、平成29年7月13日に対馬市美津島町の鶏鳴小学校において、5年生46名を対象とした水産教室を開催しました。

子供達は、美津島町漁協女性部犬束部長の指導のもと、美津島町尾崎の定置網で漁獲されたトビウオを三枚におろし、かば焼きにして試食しました。最初は魚をおろすのに悪戦苦闘していましたが、おいしいかば焼きを完成させることができ、とても喜んでいました。



魚のおろし方実演



魚おろしに挑戦する小学生



トビウオを上手におろしているところ



トビウオのかば焼き調理